

岡山県感染症週報 2013 年 第 50 週 (12 月 9 日～ 12 月 15 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 50 週 (12/9～12/15) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 48 週 2 類感染症 結核 1 名 (20 代 男)
 第 49 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 男)
 第 50 週 2 類感染症 結核 3 名 (小学生 男 1 名、30 代 女 1 名、80 代 男 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 幼児 男 1 名、小学生 男 1 名)
 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (30 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 875 名 (定点あたり 14.43 → 16.20 人) の報告があり、前週より増加しました。
 ○RS ウイルス感染症は、県全体で 55 名 (定点あたり 1.11 → 1.02 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
 ○インフルエンザは、県全体で 39 名 (定点あたり 0.56 → 0.46 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
 ○水痘は、県全体で 83 名 (定点あたり 1.30 → 1.54 人) の報告があり、3 週連続で増加しています。

【第 51 週 速報】

- 感染性胃腸炎による学級閉鎖が岡山市の小学校 1 校でありました (12 月 16 日)。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 50 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 85 名となり、第 39 週から発生が続いています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い等の徹底や、食品の冷蔵保存を行い、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中!](#)」をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 875 名 (定点あたり 14.43 → 16.20 人) の報告があり、前週より増加しました。第 43 週以降連続で増加しています。岡山市 (21.57 人) と備前地域 (20.20 人) では、定点あたり報告数が 20 人を上回り、発生レベル 3 になりました。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
3. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 55 名 (定点あたり 1.11 → 1.02 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、倉敷市 (1.91 人)、岡山市 (1.43 人)、美作地域及び真庭地域 (1.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 50 週までの年齢別累計では、6 ヶ月未満 20%、6-12 ヶ月 25%、1 歳 33% と、1 歳以下の乳児が 78% を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後再び患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。
 全国の第 49 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.39 人の報告がありました。第 45 週以降、緩やかに増加し続けており、過去 10 年の同時期で最も多くなっています。地域別では、鳥取県 (4.00 人)、徳島県 (3.69 人)、長野県 (2.91 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。
4. [インフルエンザ](#)は、県全体で 39 名 (定点あたり 0.56 → 0.46 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。県全体としては、インフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.00 人」を超えていませんが、倉敷市 (1.19 人) では定点あたり 1.0 人を超え、地域的な流行が見られています。ひきつづき手洗い・うがいなど、自分のできる感染予防に努めましょう。定期予防接種の対象の方は、本格的な流行が始まる前に、積極的に予防接種を行いましょう。定期接種の対象者以外の方についても、早めの予防接種をご検討ください。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。
5. [水痘](#)は、県全体で 83 名 (定点あたり 1.30 → 1.54 人) の報告があり、3 週連続で増加しています。詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

【お知らせ】

○年末年始に海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されました。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

- * [年末年始における海外での感染予防について](#) (厚生労働省ホームページ)
- * [海外で健康に過ごすために](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

○ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省検疫所のホームページに掲載されました。

2014 年 6 月からブラジルにおいてサッカーのワールドカップの開催が予定されています。

渡航地域によっては、中南米地域などの風土病「黄熱」の 予防接種が推奨されています。

渡航の際の注意事項及び早めの黄熱予防接種を呼びかけるリーフレットについて検疫所のホームページからご覧になれます。

- * [ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方へ](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)
- * [黄熱ワクチン接種啓発リーフレット](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

今週の注目感染症

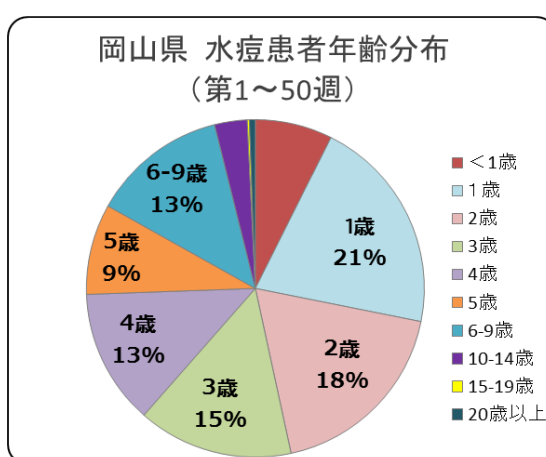
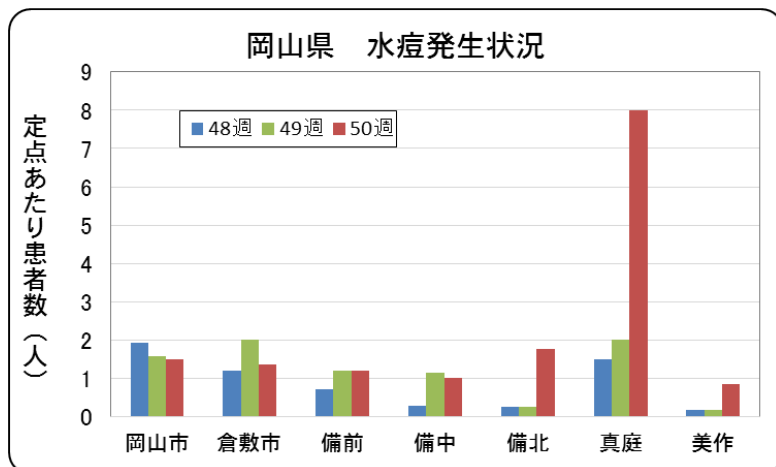
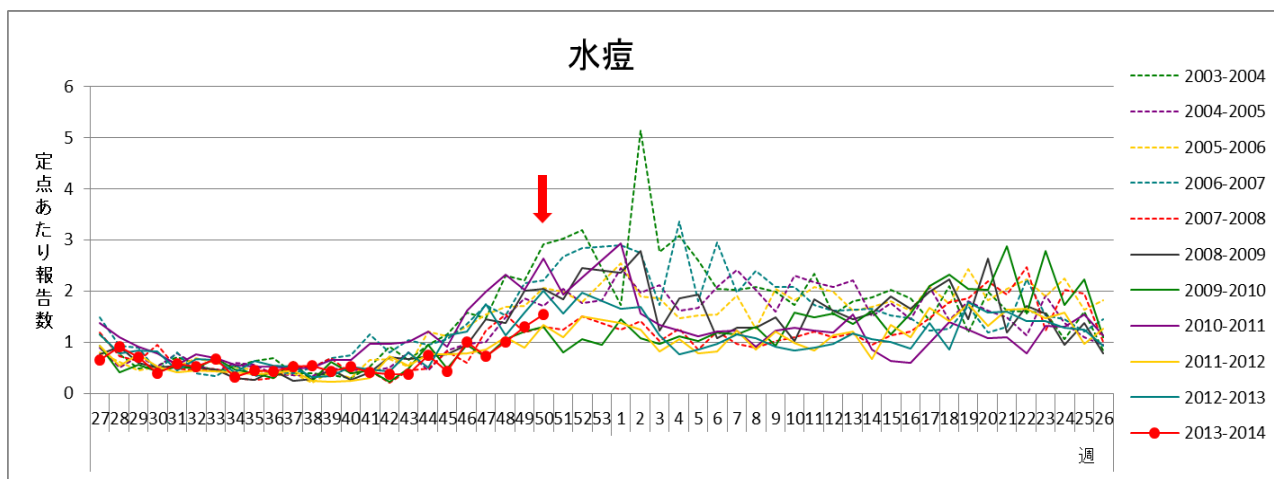
1. 水痘

水痘は、感染症発生動向調査において、5 類の定点把握感染症であり、定点医療機関において、医師は水痘患者を診断したときには、翌週の月曜日に最寄りの保健所に届出ることになっています。

また、学校保健安全法等において、すべての発しんがかさぶたになるまで出席停止とされています。

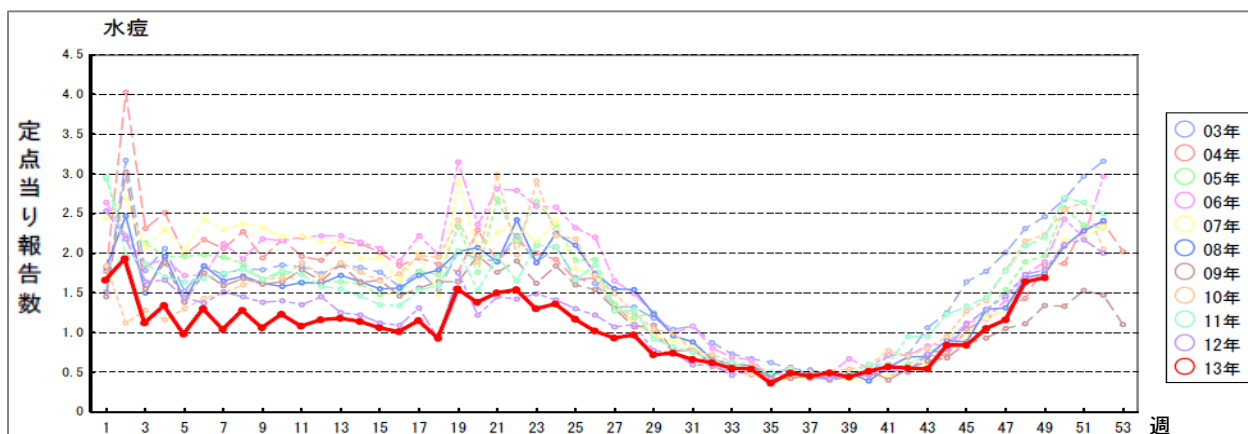
[水痘とは（国立感染症研究所 感染症の話）](#)

【岡山県の発生状況】



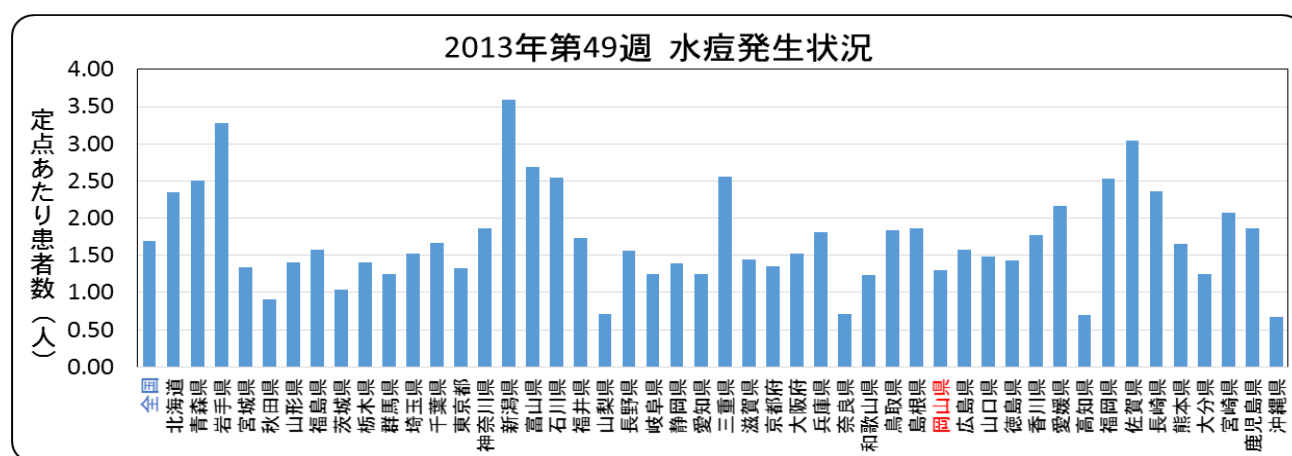
水痘は、第50週には県全体で83名（定点あたり1.30 → 1.54人）の報告があり、3週連続で増加しています。地域別では、真庭地域（2.00 → 8.00人）、備北地域（1.75人）、岡山市（1.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域では、前週より大きく増加し、発生レベル3になりました。今後の県内の発生状況に注意するとともに、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。年齢別では、1歳21%、2歳18%、3歳15%の順で多く報告されており、1歳～5歳の幼児が76%を占めています。

【全国の発生状況】



全国の第49週までの発生状況を見ると、第43週頃から増加傾向となっています。過去10年の発生動向グラフでは、12～1月及び5～6月頃に報告数の増加が見られますので、今後の発生状況に注意してください。

([国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2013 年第49週](#))



都道府県別の発生状況を見ると、新潟県（3.59人）、岩手県（3.28人）、佐賀県（3.04人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

【水痘とは】

水痘（水ぼうそう）は、水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染によって発生する急性の伝染性疾患です。感染力は極めて強く、発疹出現の1～2日前から出現後4～5日、あるいはかさぶたになるまで伝染力があります。主にヒト-ヒト間の接触によって感染します。季節的には毎年12～7月に多く、8～11月には減少しており、患者の年齢はほとんどが9歳以下となっています。

【症状】

通常2週間前後（10～21日）の潜伏期間を経て発病し、発疹、倦怠感、発熱を主症状として発症します。発疹は全身性で痒みを伴い、短時間で水疱となり、かさぶたへと変化します。通常は小児期に多く発生する予後良好な疾患ですが、細菌の二次感染（敗血症を含む）、脳炎、脱水、肺炎、肝炎などの合併症も報告されており、15歳以上と1歳以下では合併症の危険性が高くなります。

水痘は、治癒した後でもウイルスが知覚神経節に潜伏感染しており、感染者の免疫が低下した場合や高齢化などに伴って再活性化し、将来にわたって帯状疱疹を発症する可能性があるといわれています。

【治療・予防】

通常、皮膚の消毒・消炎・保護などの目的で軟膏の外用が行われ、二次感染を起こした場合には抗菌薬の投与、重症例などでは抗ウイルス剤の投与などによる治療が行われます。

この感染症は、ヒト-ヒト感染によるため、感染源のヒトとの接触を避けることが重要です。

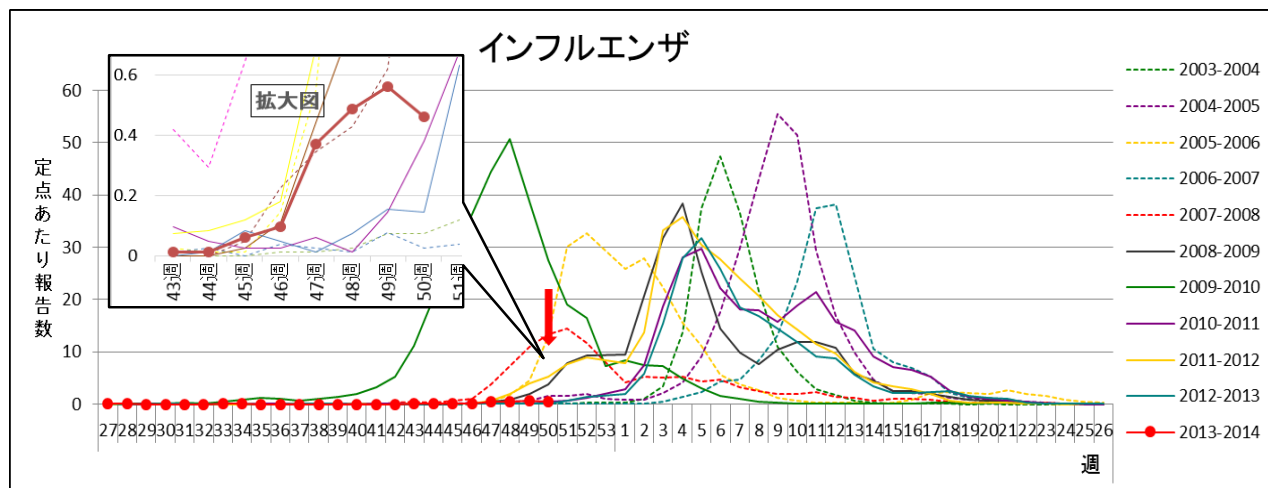
水痘には、任意接種のワクチンがあります。水痘のワクチンは1歳から接種することができますので、任意での予防接種をご検討ください。

([国立感染症研究所 IDWR 2011 年第47週 注目すべき感染症 水痘](#))

インフルエンザ情報 2013 年 第 50 週 (12 月 9 日 ~ 12 月 15 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 39 名 (定点あたり 0.56 → 0.46 人) の発生がありました (84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

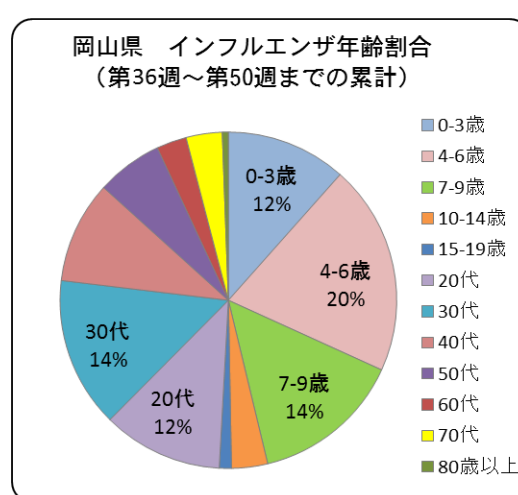
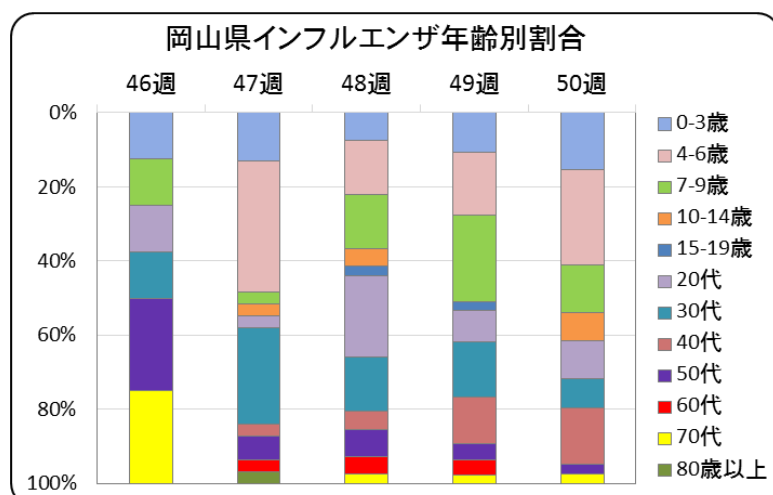


インフルエンザは、県全体で 39 名 (定点あたり 0.56 → 0.46 人) の発生があり、前週よりわずかに減少しました。県全体としての報告数はインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を超えていないものの、倉敷市 (1.19 人) では、地域的な流行が見られています。

12 月に入り、インフルエンザの流行シーズンを迎えています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

1. 年齢別発生状況

2013 年第 36~50 週までの年齢別累計割合は、4-6 歳 20%、30 代及び 7-9 歳 14% の順で多くなっています。

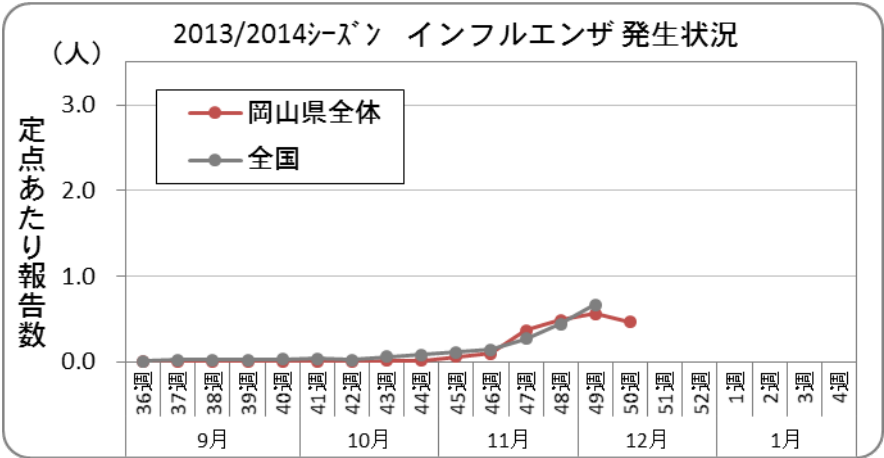


2. 地域別発生状況

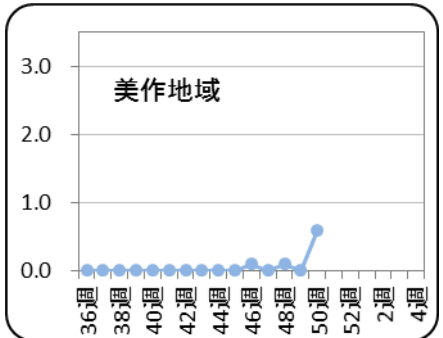
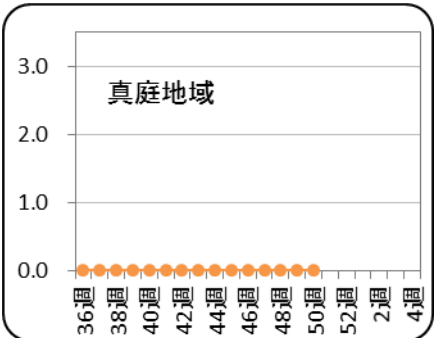
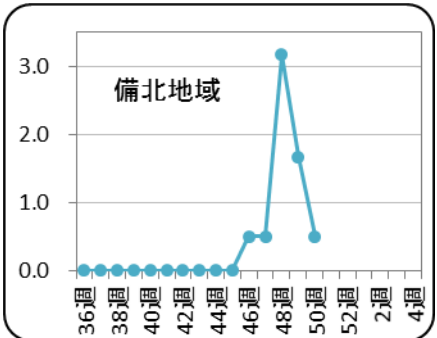
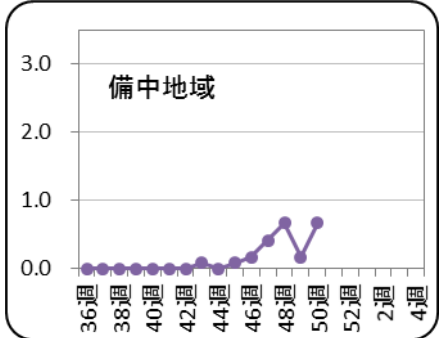
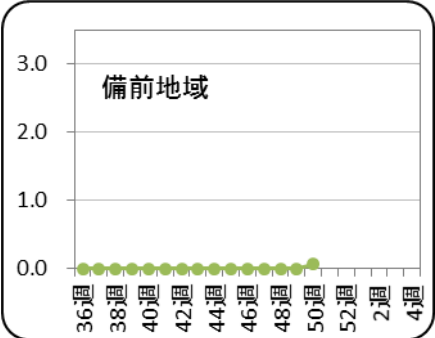
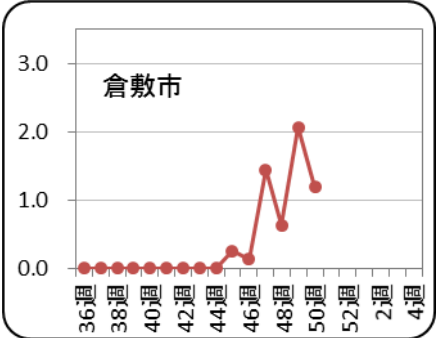
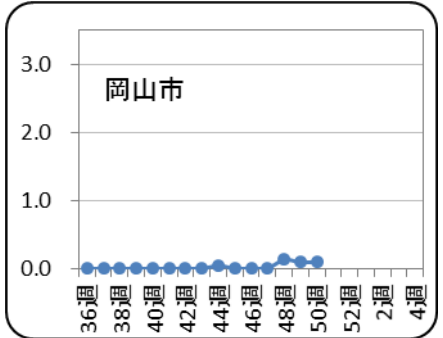
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	39		備 中	患者数	8	
	定点あたり	0.46			定点あたり	0.67	
岡山市	患者数	2		備 北	患者数	3	
	定点あたり	0.09			定点あたり	0.50	
倉敷市	患者数	19		真 庭	患者数	—	
	定点あたり	1.19			定点あたり	—	
備 前	患者数	1		美 作	患者数	6	
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.60	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第49週(12/2～12/8)速報値によると、全国では定点あたり0.67人であり、第43週以降増加が続いています。地域別では、佐賀県(2.69人)、鹿児島県(2.37人)、山口県(2.01人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、38都道府県で前週よりも増加しました。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第 50 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 7 株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 94 株、AH1pdm09 型が 40 株、B 型が 37 株で、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。（平成 25 年 12 月 19 日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	79	0	46	0	5	—	—	0	2	0	3	H25. 11. 13
岡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
倉敷市	0	58	0	36	0	3	0	0	0	0	0	3	H25. 11. 18
備前地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
備中地域	0	21	0	10	0	2	0	0	0	2	0	0	H25. 11. 13
備北地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
真庭地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
美作地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 50 週：0 施設

累計：5 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	0	4	—	—	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

<インフルエンザの予防接種はお早めに！>

インフルエンザの予防接種を行っても、抗体ができるまでには 2 週間程度かかるとされています。本格的な流行が始まる前に、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

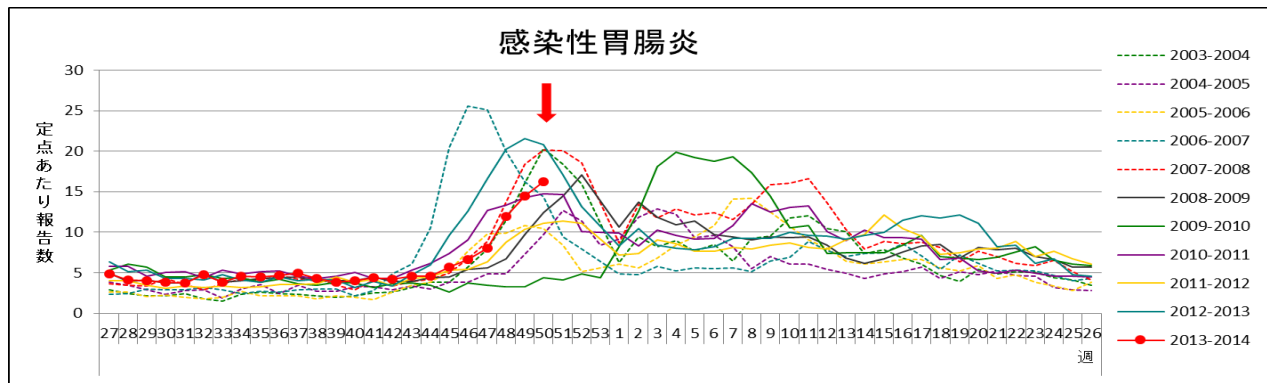
ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 50 週 (12 月 9 日 ~ 12 月 15 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 875 名（定点あたり 14.43 → 16.20 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。

【第 51 週 速報】

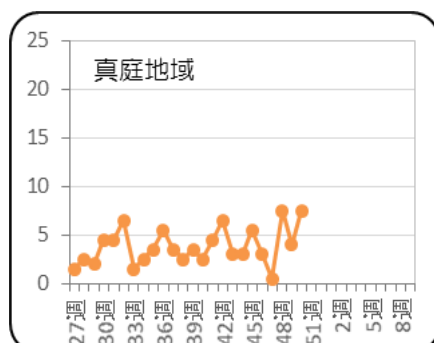
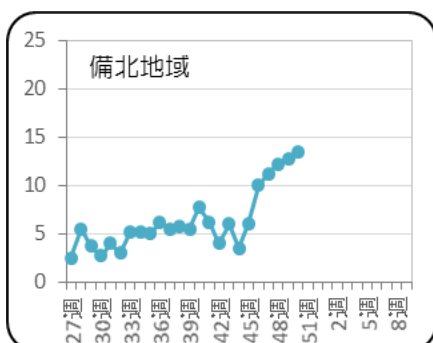
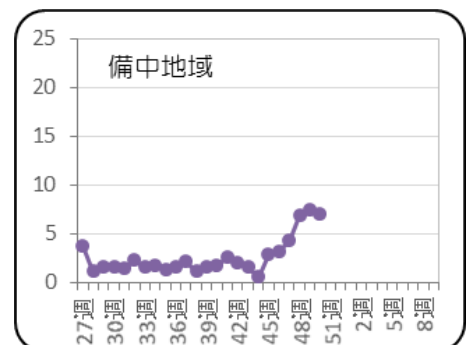
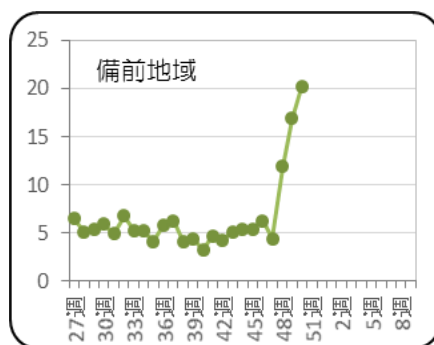
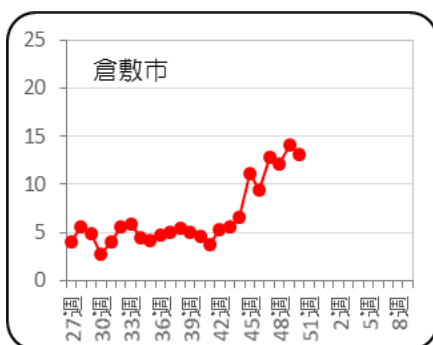
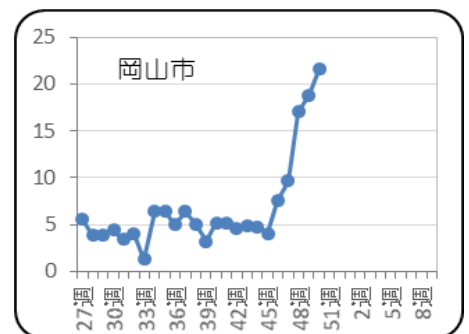
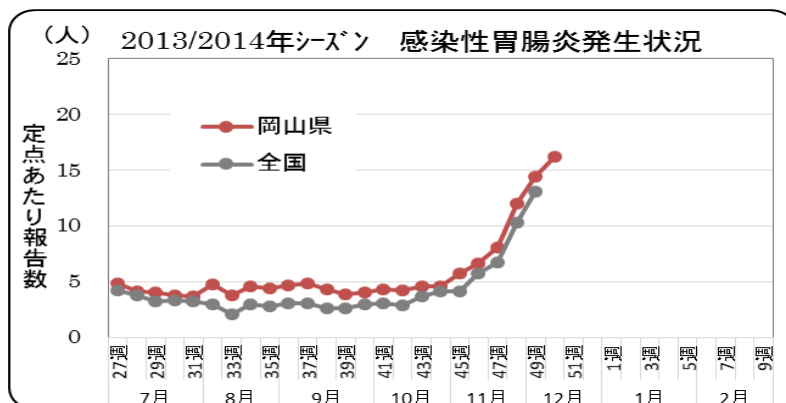
○岡山市の小学校 1 校で、感染性胃腸炎による学級閉鎖がありました（12 月 16 日）。



感染性胃腸炎は、県全体で 875 名（定点あたり 14.43 → 16.20 人）の発生があり、前週より増加しました。第 43 週以降報告数の増加が続いており、11 月下旬頃からは急激に増加しています。冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

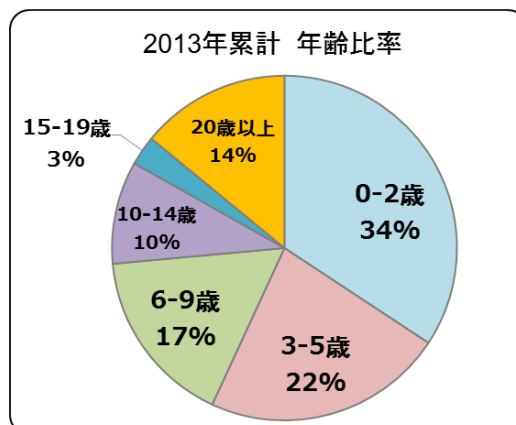
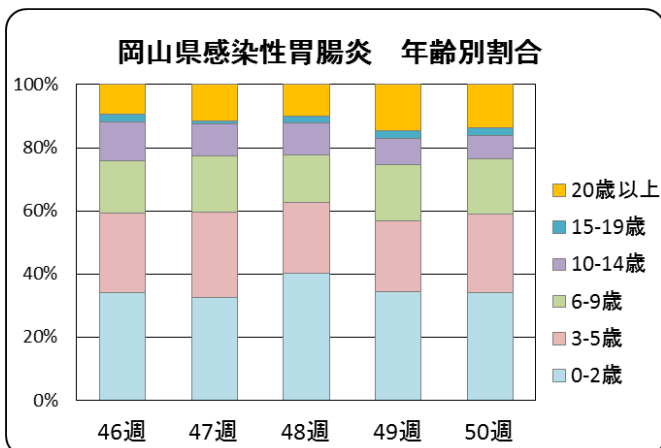
[○ノロウイルスに関する Q&A について（厚生労働省）](#)

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、岡山市（21.57 人）、備前地域（20.20 人）、美作地域（18.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域、美作地域では前週にひきつづき大きな増加となっています。岡山市及び備前地域では、定点あたり患者数が 20 人を上回り、発生レベル3 になりました。

年齢別累計では、0～2 歳の乳幼児が全体の 34%を占めています。



◎感染性胃腸炎が増加しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2013年 50週 (2013/12/09～2013/12/15)

2013年12月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	39	0.46	2	0.09	19	1.19	1	0.07	8	0.67	3	0.50	—	—	6	0.60
RSウイルス感染症	55	1.02	20	1.43	21	1.91	2	0.20	2	0.29	2	0.50	2	1.00	6	1.00
咽頭結膜熱	24	0.44	5	0.36	—	—	10	1.00	4	0.57	—	—	1	0.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	41	2.93	5	0.45	—	—	3	0.43	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	875	16.20	302	21.57	145	13.18	202	20.20	49	7.00	54	13.50	15	7.50	108	18.00
水痘	83	1.54	21	1.50	15	1.36	12	1.20	7	1.00	7	1.75	16	8.00	5	0.83
手足口病	8	0.15	2	0.14	4	0.36	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	9	0.64	6	0.55	2	0.20	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	12	1.00	1	0.20	1	0.25	6	6.00	2	2.00	—	—	—	—	2	2.00
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 50週 (2013/12/09～2013/12/15)

2013年12月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	39	0.46	2	0.09	19	1.19	1	0.07	8	0.67	3	0.50	—	—	6	0.60
咽頭結膜熱	24	0.44	5	0.36	—	—	10	1.00	4	0.57	—	—	1	0.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	41	2.93	5	0.45	—	—	3	0.43	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	875	16.20	302	21.57	145	13.18	202	20.20	49	7.00	54	13.50	15	7.50	108	18.00
水痘	83	1.54	21	1.50	15	1.36	12	1.20	7	1.00	7	1.75	16	8.00	5	0.83
手足口病	8	0.15	2	0.14	4	0.36	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	2	0.18	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	12	1.00	1	0.20	1	0.25	6	6.00	2	2.00	—	—	—	—	2	2.00

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第50週 2013/12/09～2013/12/15)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	39	-	1	1	1	3	4	3	3	-	-	5	3	-	4	3	6	1	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	55	12	16	15	4	3	4	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	24	-	2	5	-	4	6	6	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	-	-	1	3	2	10	9	10	4	2	2	8	-	-
感染性胃腸炎	875	7	49	150	93	82	73	62	58	46	25	24	64	22	120
水痘	83	-	1	10	16	14	18	7	6	2	5	-	3	-	1
手足口病	8	-	1	2	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	-	15	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	2	-	-	2	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	12	-	-	1	2	1	-	1	-	-	-	1	-	-	2	4	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

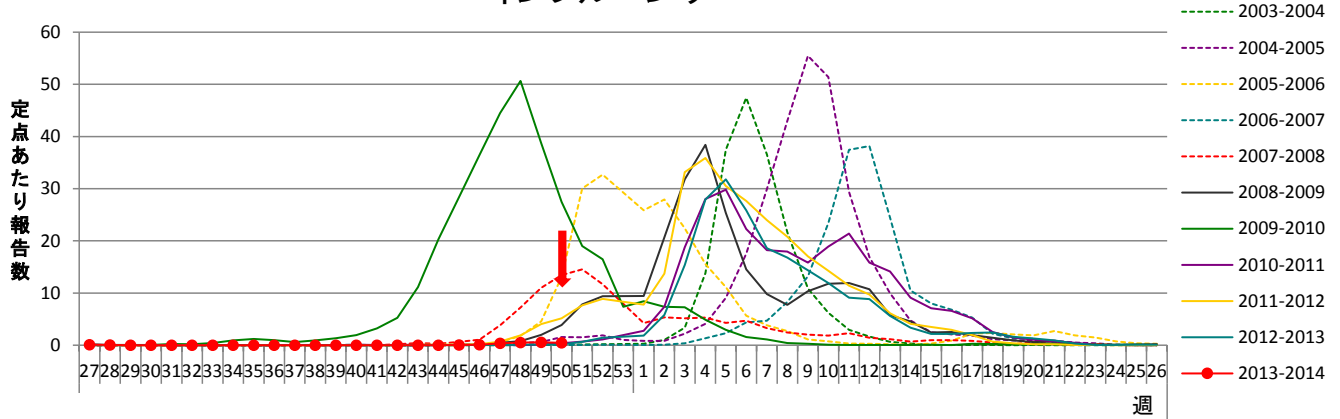
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

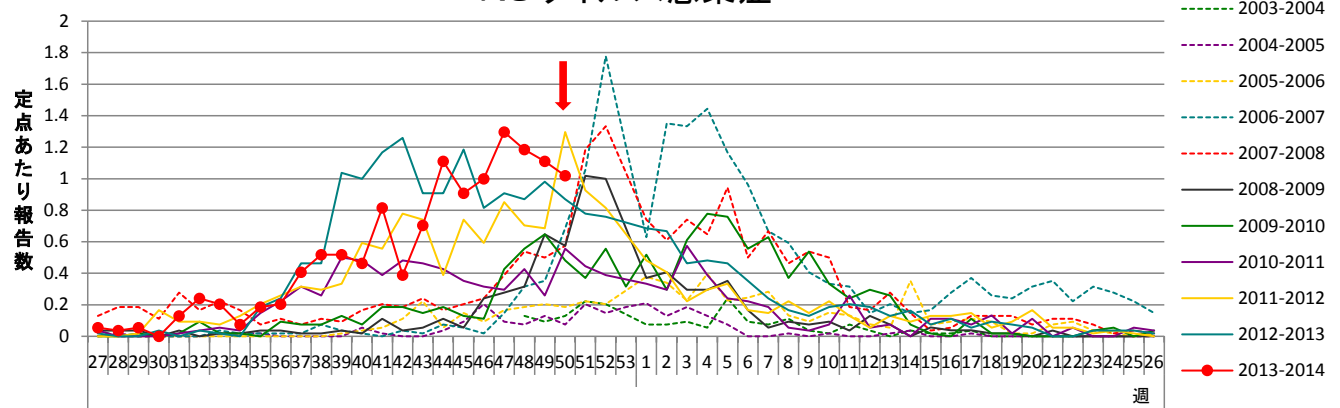
2013 年 50 週

分類	疾病名	2013		2012 昨年	疾病名	2013		2012 昨年	疾病名	2013		2012 昨年
		今週	累計			今週	累計			今週	累計	
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	332	477	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	2	85	169
	腸チフス	－	1	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	－	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	5	2
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	－	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	1	－	日本紅斑熱	－	1	－	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	1	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	24	29	レプトスピラ症	－	2	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	16	11	ウイルス性肝炎*3	－	11	7	急性脳炎*4	－	5
クリプトスポリジウム症		－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	4	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	2	1
後天性免疫不全症候群		1	17	16	ジアルジア症	－	1	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	－
侵襲性髄膜炎菌感染症		－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	19	－	先天性風しん症候群	－	－	－
梅毒		－	8	7	破傷風	－	3	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	1	2	風しん	－	75	6	麻しん	－	1	6

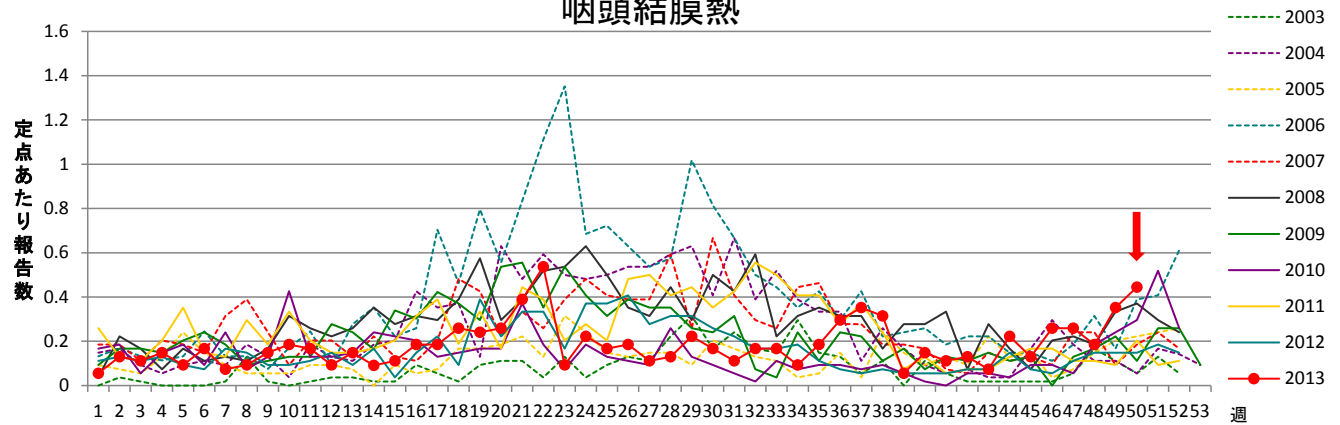
インフルエンザ



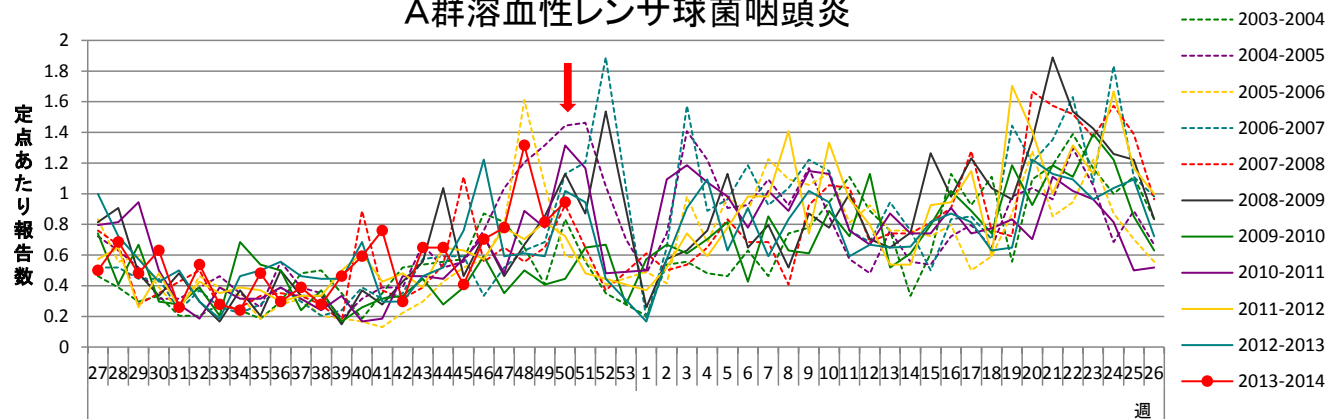
RSウイルス感染症



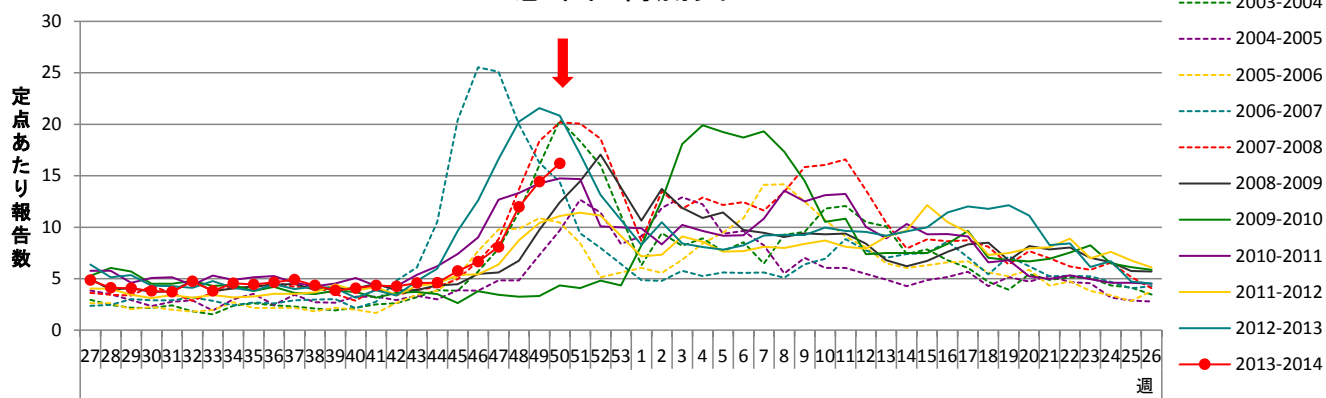
咽頭結膜熱



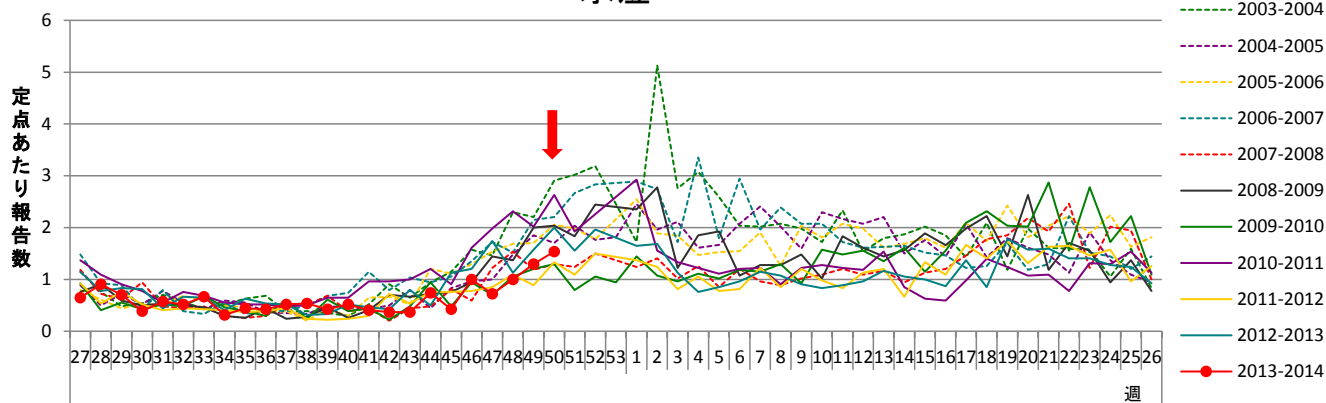
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



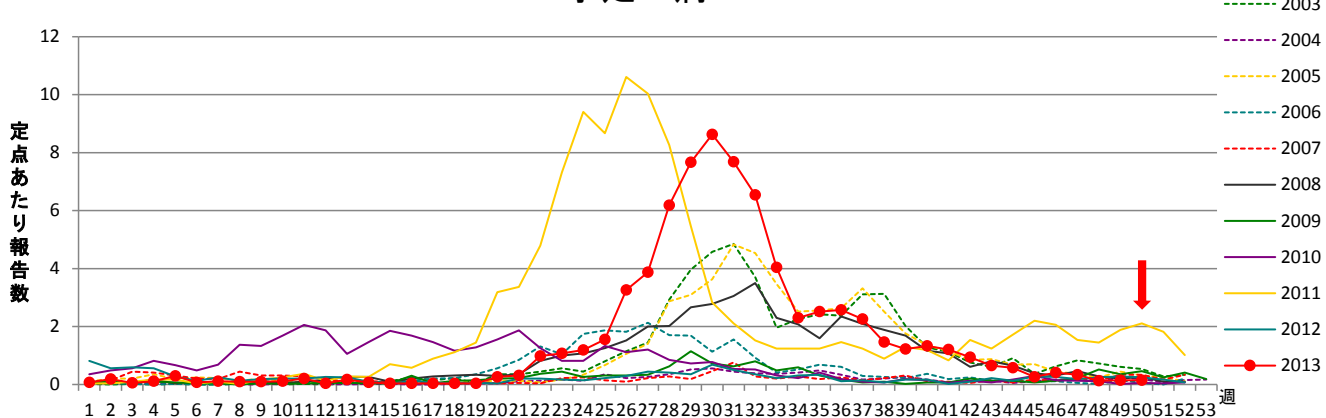
感染性胃腸炎



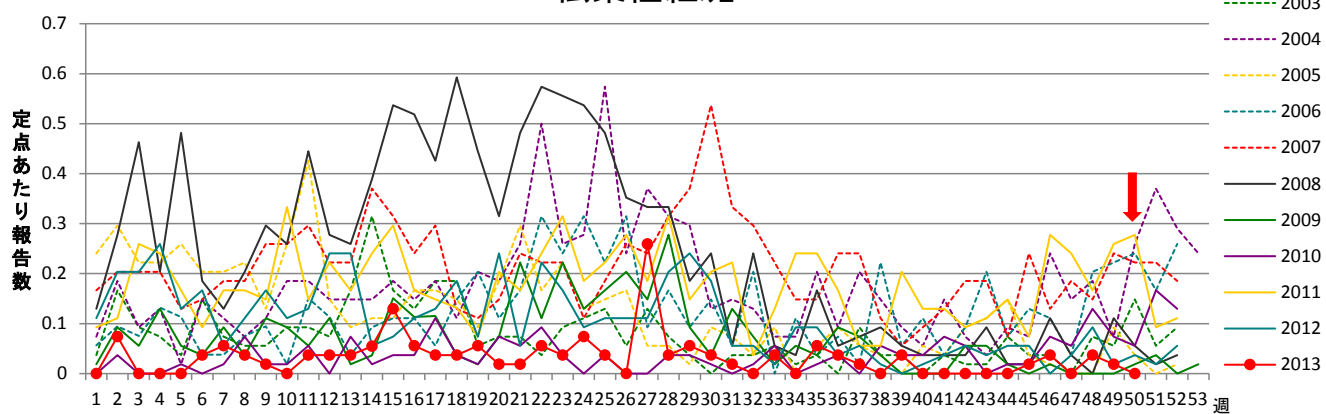
水痘



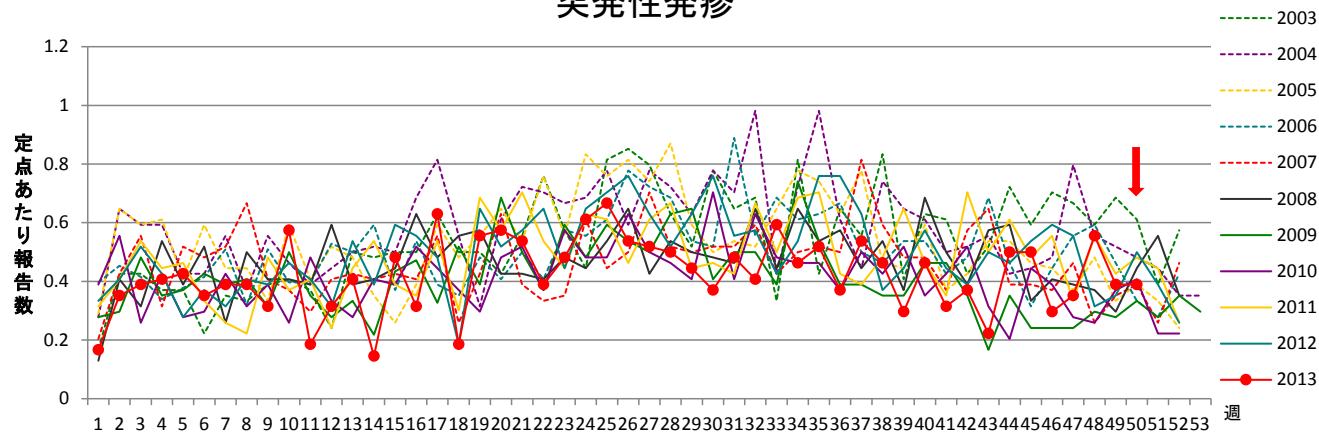
手足口病



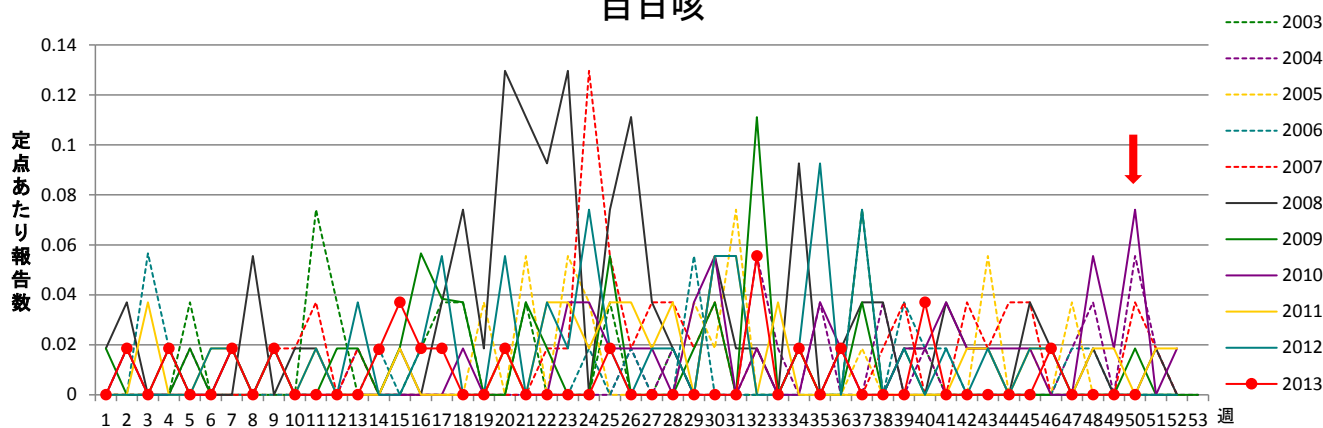
伝染性紅斑



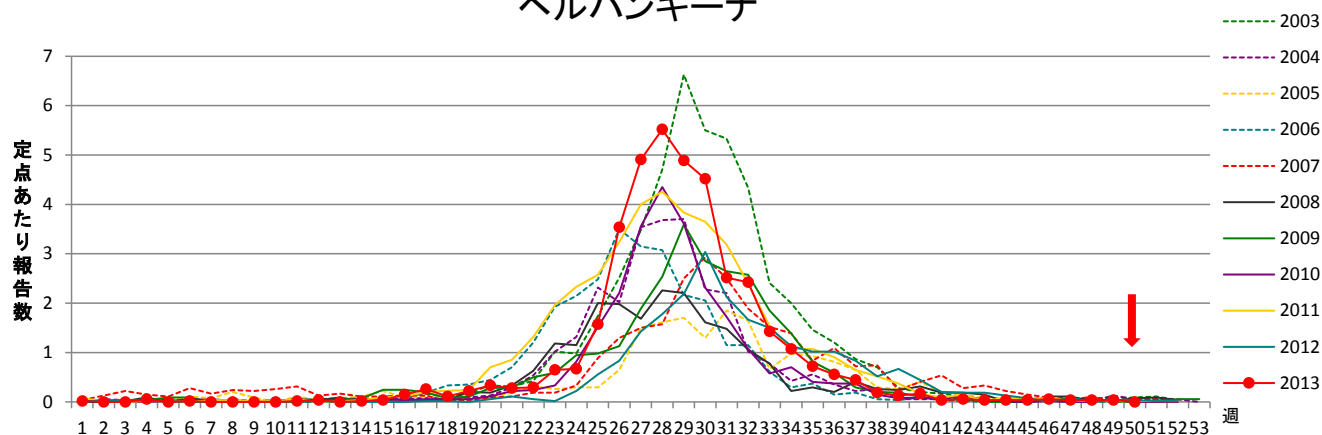
突発性発疹



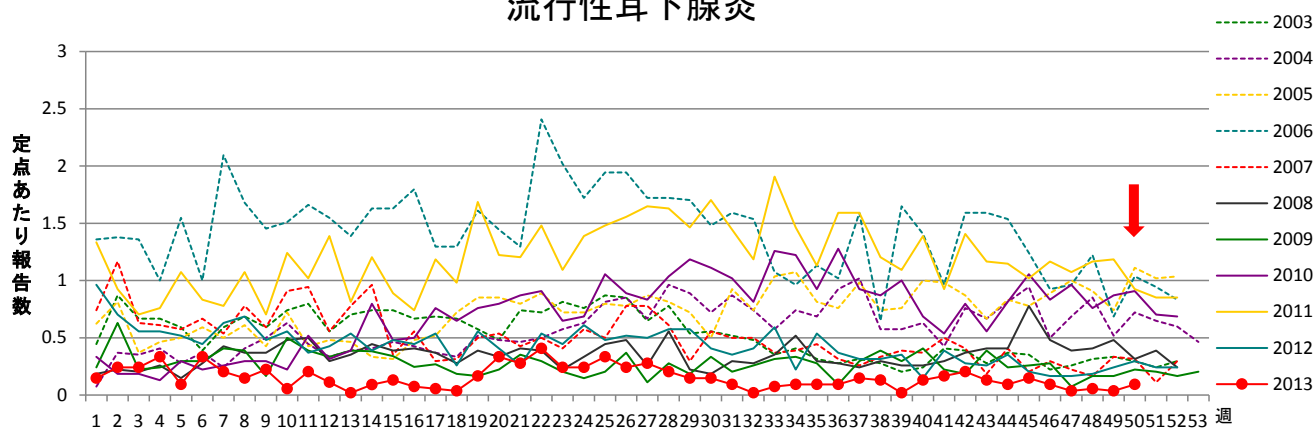
百日咳



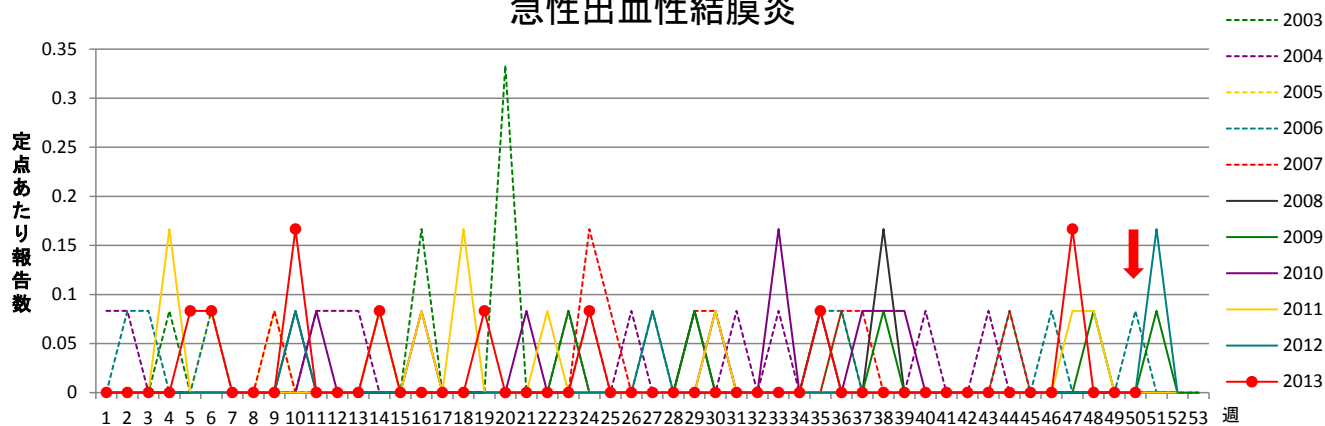
ヘルパンギーナ



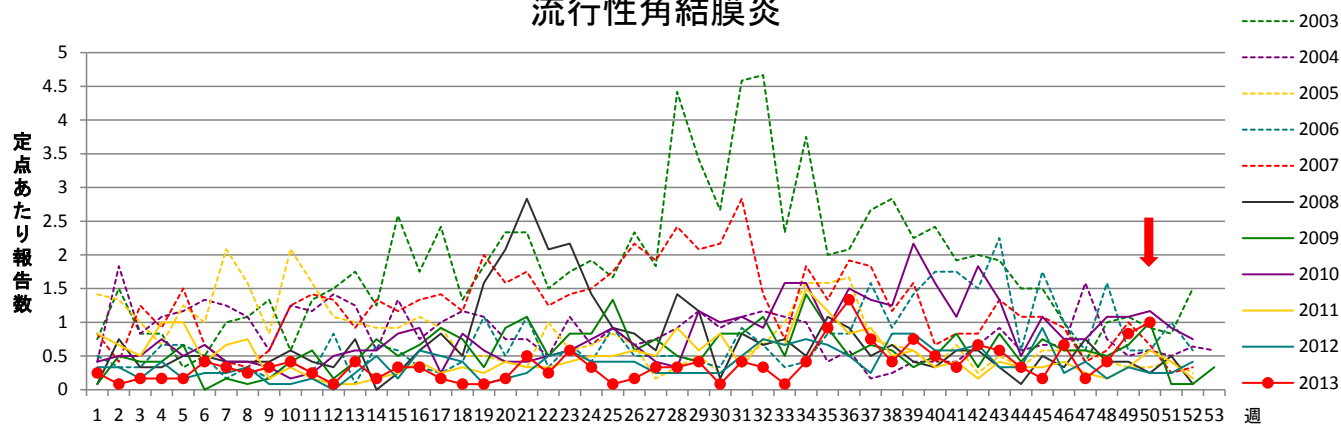
流行性耳下腺炎



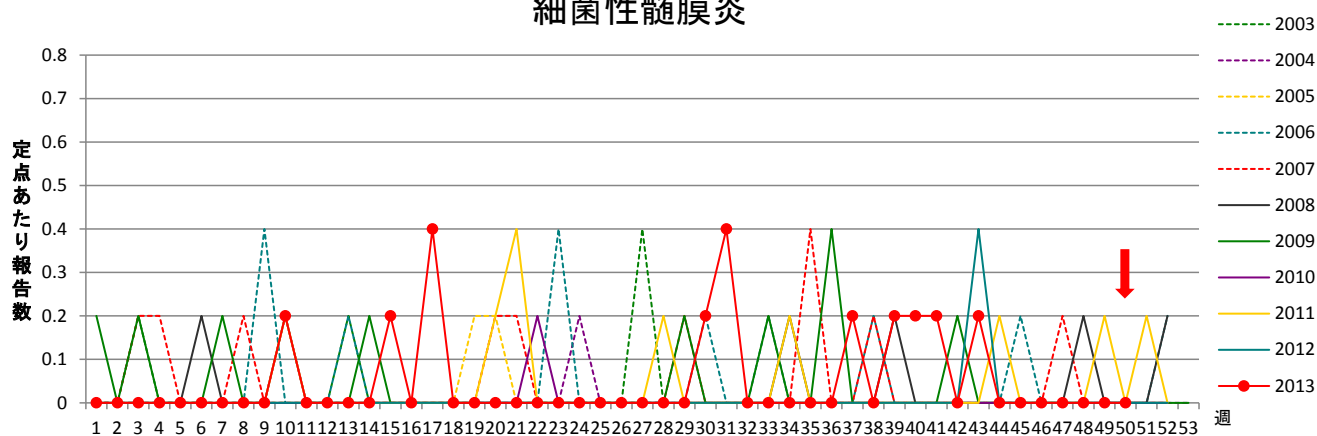
急性出血性結膜炎



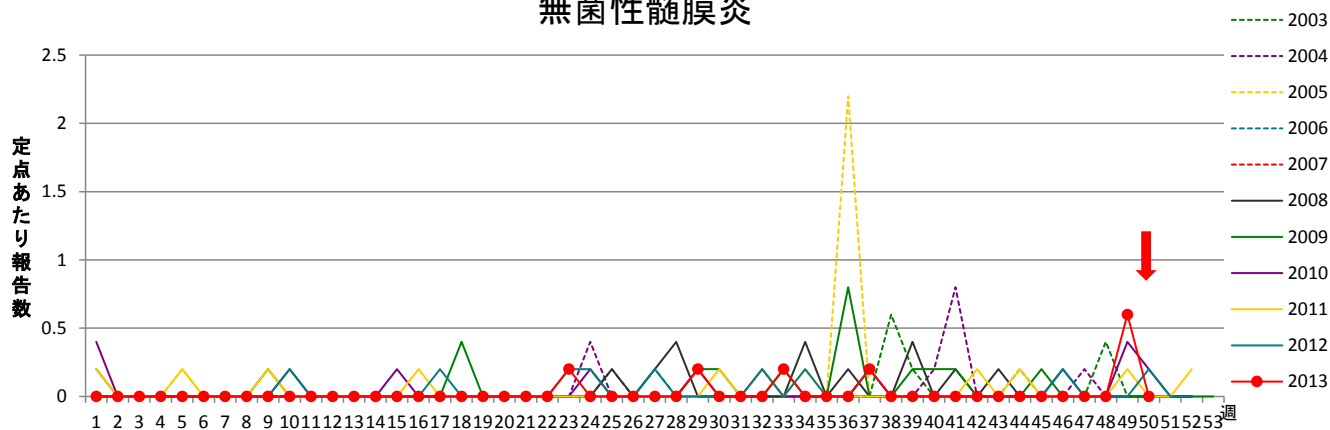
流行性角結膜炎



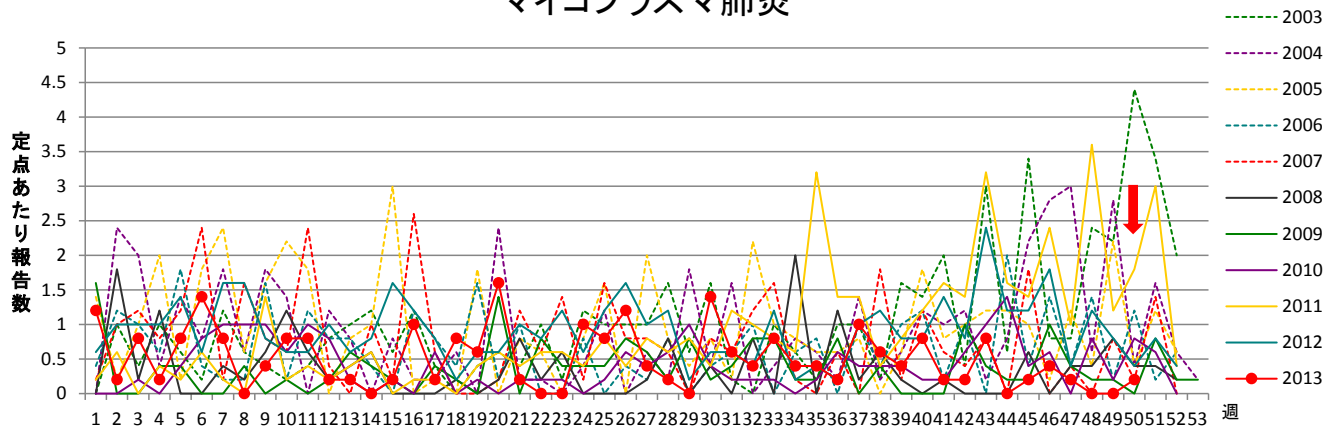
細菌性髄膜炎



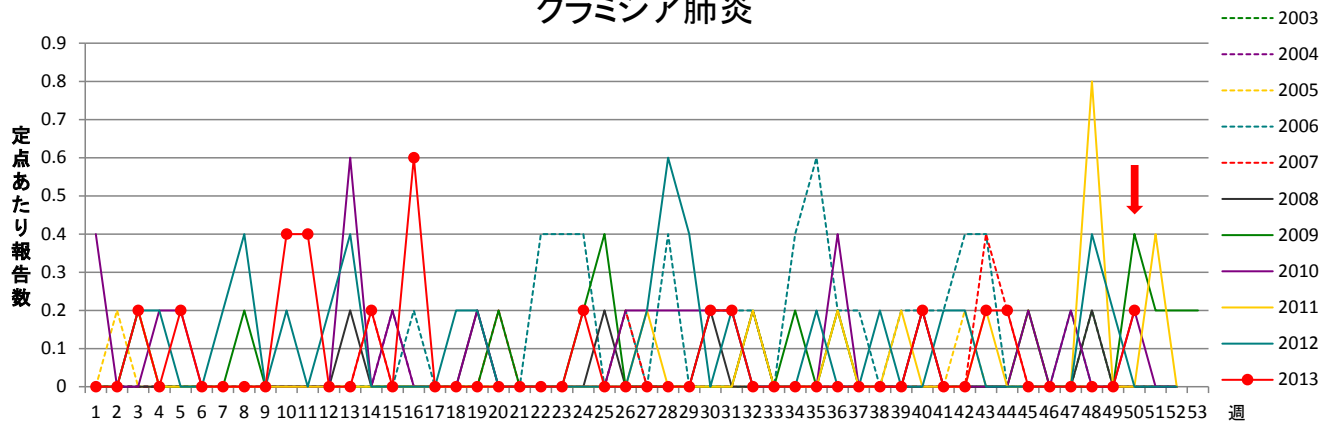
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

